

第22期事業報告

〔 自 平成22年 4月 1日 〕
〔 至 平成23年 3月 31日 〕

I 会社の現況に関する事項

1. 事業の経過及びその成果

(1) 当社を取りまく環境と成果

当社は、新たに策定した『中期経営ビジョン（平成 22～24 年度）』のもと、「いつでも どこでも だれでも“学びたい”に応えます」という大目標に向け、全社的な取り組みを始めました。平成 22 年度は、政治や経済の混迷が続き、さらに年度末の 3 月 11 日には「東日本大震災」という未曾有の災害もおきました。その影響をわずかながら受けましたが、当社の売上高は、総額、NHK 関係業務、自主業務のすべてにおいて過去最高を記録し、前期に対して「増収・増益」を達成することができました。さらに、NHK の副次収入への貢献額も事業計画を大きく上回りました。

NHK の番組制作受託業務では、22 年度、こども幼児、学校教育、語学、美術、教養、趣味実用、科学健康などのジャンルを中心に、9,700 本余りの番組を制作しました。創立以来 22 年にわたって培ってきた専門性を生かし、幅広い視聴者層に対して“学ぶ楽しさ”を実感できる番組を生み出すと同時に、時代のニーズを先取りする新たな番組の開発も進めました。

自主業務では、メディアミックス事業を中心に、NHK の放送番組で培われた様々なノウハウを社会に還元したり、各種ソフトの制作・販売、イベントの企画・運営など放送以外の「教育コンテンツ」を提供したりと、多様な展開を行ってきました。また、放送大学学園関係の受託業務も継続的に実施しました。また、これからの大きな柱となる「デジタル事業」の開発にも力を尽くしています。

ほかにも、将来の事業展開のための人材確保や専門性の継承を積極的に進め、“学び”に携わる企業として、常にモラルと志を高く維持できる組織・体制の整備を推進し、社会の信頼に応えていきます。

(2) 損益の状況

当期の売上高は、214 億 85 百万円となり、前期比 6.1%増、12 億 39 百万円の増収となりました。

売上原価は、199 億 84 百万円となり、前期比 10 億 77 百万円、5.7%増。販売費及び一般管理費は、8 億 10 百万円となりました。

損益面につきましては、営業利益 6 億 90 百万円、前期比 33.6%増、1 億 73 百万円の増益。営業外損益を加えた経常利益は、7 億 65 百万円で、前期比 30.7%増、1 億 79 百万円の増益となり、これに特別損益及び法人税等を加減した当期純利益は、4 億 12 百万円、前期比 21.8%増、73 百万円の増益となりました。

(3) 事業別の概況

【事業別売上高】

(単位：千円)

区 分	第 2 2 期 (22. 4. 1～23. 3. 31)		第 2 1 期 (21. 4. 1～22. 3. 31)		増 減		
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	増 減 率	
NHK 関係業務	14,996,051	69.8%	14,015,878	69.2%	980,172	7.0%	
自 主 業 務	6,489,142	30.2%	6,229,325	30.8%	259,816	4.2%	
内 訳	各種ソフト制作	1,343,391	6.2%	1,298,545	6.4%	44,846	3.5%
	イベント実施	1,494,296	7.0%	1,655,175	8.2%	△160,878	△ 9.7%
	権料・印税ほか	2,373,855	11.0%	2,133,546	10.6%	240,309	11.3%
	拡大等受託業務	921,251	4.3%	896,763	4.4%	24,488	2.7%
	デジタル関連	356,346	1.7%	245,294	1.2%	111,051	45.3%
計	21,485,193	100.0%	20,245,204	100.0%	1,239,989	6.1%	

【NHK関係業務】

当社は、NHKの番組制作関連会社として、NHKからの受託業務である「趣味・実用」「美術・教養」「科学・健康」「教育」「語学」「こども幼児」など幅広い分野にわたる教育・教養番組を、高い品質を保ちながら、制作体制に万全を期し、専門性と創造性を発揮して企画・制作しました。

平成 22 年度の制作本数は、定時番組（新規・継続）、特集番組を合わせ、9,709 本（前年比 310 本増）です。メディア別では、総合テレビ 661 本、教育テレビ 4,441 本、ラジオ 3,919 本、衛星放送（3 波）377 本、テレビ国際放送 107 本、ワンセグ 204 本を制作し、このうち特集番組は 340 本でした。

<実用・趣味分野>

「きょうの料理」「すてきにハンドメイド」「住まい自分流」などの実用番組では、日常の生活に欠かせないノウハウに加えて、エコ、安全、健康などの時代のトレンドを盛り込み、好評を博しました。「趣味の園芸」「趣味講座 4 番組」

「囲碁・将棋」などの趣味番組は、コアな視聴者を確実に捉え、安定した支持を得ています。

テキストの売り上げは、「料理」「園芸」が苦戦している一方、「らくらくパソコン塾」は堅調で、着実に版を重ねました。

また、「きょうの料理」では、昨年同様、夏期特集で定時番組を発展させた「メシタビ」を2本放送し、反響を呼びました。さらに、その他の特集番組として、「それはブルース・リーから始まった」「スティーブ・マックイーン ラストイヤーズ」「道場六三郎 80歳の挑戦」「死闘 渡辺明対羽生善治～ドキュメント竜王戦～」など、趣味・実用の専門性を生かした番組を制作し、好評を得ています。その他新番組として、女性の生きざまの飛躍を描く「グラン・ジュテ」や、5分ミニ番組「Eテレ 0655/2355」は、企画の斬新さもあり、いずれも話題を呼びました。

総合テレビの新番組「あさいち」では、「プレミアムトーク」や「あさいちごはん」、「あさいちガーデン」などのコーナーを担当し、番組の成功に貢献しました。さらに、広報番組「歌うコンシェルジュ」をスタートさせました。

イベントと連動した「東京国際キルトフェスティバル」「世界らん展日本大賞」「国際バラとガーデニングショウ 2010」などの生中継番組を、今期も衛星放送で放送しました。

<美術・教養分野>

人気長寿番組「日曜美術館」では、政治学者の姜尚中さんがキャスターを務め、奥深い美の世界をさらにわかりやすく伝えました。“暮らしの中の美”の鑑賞の“ツボ”を解説する「美の壺」は、俳優の草刈正雄さんが案内人を務め、普段使いの器、家具、着物、料理、建築に至るまで幅広いアイテムを取り上げました。

衛星ハイビジョンでは、年度前半に「にっぽん巡礼」、後半に「男前列伝」を、それぞれ半期の定時番組として放送しました。また、専門性を活かし数多くの特集番組も制作しました。5月～6月にかけては、「アートはBSデジタルで」キャンペーンとして「印象派」を大特集。国内共同制作番組「巨匠たちの肖像」（90分×5本シリーズ）や、丸の内の特設スタジオからの4時間の生放送番組

「印象派名画大集合」を制作しました。京都・南禅寺別荘群を初めて本格的にハイビジョンカメラで撮影した「京都！天下無双の別荘群」は、総合テレビ「ワンダー×ワンダー」と衛星ハイビジョン「ハイビジョン特集」に展開、視聴率、反響共に大好評を得ました。

教養番組では、ビジネスパーソンを対象にした「仕事学のすすめ」で、経済評論家の勝間和代さんがトランスレーターをつとめ、「秋元康 ヒットを生み出す企画力」などを制作。そして「こだわり人物伝」では、指揮者・佐渡裕氏出演の「バーンスタイン」などの話題作を放送しました。新しくスタートした「極める！」は、こだわりのモノ・ヒト・コトを持つ著名人が、自らそれを極める旅に出発する番組で、「杏の戦国武将学」「佐野史朗のなぞの石学」などユニークなシリーズを放送しました。

福祉では、「福祉ネットワーク」内のシリーズ「にっぽんリハビリ応援団」が新たにスタート。さらに「公開すこやか長寿」をそれぞれ10本制作しました。

短歌・俳句では、視聴者からの投稿により進められる「NHK俳句」「NHK短歌」に対して、特に高齢者層から厚い支持が寄せられています。衛星第2の長時間生放送番組「全国短歌日和」「全国俳句日和」をそれぞれ春秋の2回ずつ放送し、視聴者からの投稿作品を新しい演出で紹介しました。「今を生きて老い思わず 俳人金子兜太」や、ユニークな「短歌・俳句入門番組」など、多くの特集展開も行いました。衛星第2の「カシャッと一句！フォト 575」は、写真と俳句・川柳などの「五七五」を組み合わせて1つの作品とする新感覚アート番組として、人気を博しました。

〈科学・健康分野〉

科学番組では、中高生・若者向け科学エンターテインメント番組「サイエンス」が2年目を迎え、著名人ゲストを加えるなど大幅なリニューアルを行いました。普段から気になる素朴な疑問を楽しみながら解明していく番組スタイルも定着し、視聴率も向上しました。また番組ツイッターではフォロワー5,000人以上を獲得し、教育テレビの番組中1位とも記録しました。科学的なものの考え方が自然に身についていくと専門家からも高い評価を獲得し、大阪大学では指定参考番組として授業にも利用されています。

同じく2年目を迎えた「IT ホワイトボックスⅡ」ではIT機器やITサービスの難

解な仕組みを分かりやすく伝え、20代・30代の男性を中心に好評を博しています。4年目を迎えた「モリゾー・キッコロ 森へ行こうよ!」では、上海万博特集やミニコーナー「モリコロシネマ」「泣き虫つむたの生きもの大冒険」などを展開し、環境教育番組として自然の大切さや共存の知恵を子どもたちに伝えました。

健康番組では、複数の専門医が登場しベストな治療法を選ぶ手がかりを紹介する「ここが聞きたい! 名医にQ」が3年目を迎え、引き続き好評を得ています。長寿番組「きょうの健康」も継続し、2年目を迎えた「先どりきょうの健康」では、その週に放送する1本を総合テレビで先行放送しました。また、年間テーマとして取り上げた「認知症」や、骨や関節などの運動器が衰える「ロコモティブシンドローム」については、定時番組や特集番組などで放送しました。

このほか、「恐竜ミステリーツアー~誕生 繁栄 絶滅のナゾ~」や「すイエんサー・正月スペシャル」、「突撃! ネイチャーX」、「NHKスペシャル 認知症を治せ!」など、総合・教育・衛星ハイビジョンで、様々な特集番組も制作しました。また、開発番組として、若者向けの医療情報番組「名作ホスピタル」や理科クロスメディア番組「ツナガルカガク」の制作にも取り組みました。

<学校向け教育分野>

国際共同制作番組「大科学実験」、小学校向け新番組「できたできたできた」、中学校・高校向け「10min. ボックス」、通信制高校向け「NHK高校講座」、学び直し番組「ベーシック10」などを制作し、教育現場を広くサポートしてきました。

夜間のゴールデンタイムに高校生向けの「テストの花道」を新設し、親しみやすい演出で勉強のコツや成績向上の秘訣を伝授。番組に連動したクロスメディア展開も実施。携帯会員は5万人に達する勢いで、中学生や保護者にも支持され、家庭での学習番組視聴に新たな道を開きました。

特集では、「大科学実験スペシャル」、「テストの花道スペシャル」、2本の「ハイビジョン特集」、「ワンダー×ワンダー」のほか、秋のNHK文化祭ではイベントの開催と関連番組の制作も行ないました。

なお、「大科学実験」はスタイリッシュな映像と卓越した撮影技術が海外でも高い評価を受け、これまでにABU（アジア太平洋放送連合）賞・青少年部門最優秀賞、日本賞・児童部門最優秀賞（文部科学大臣賞）、アジア・テレビ賞2010子ども番組最優秀賞（シンガポール）、タイ科学映像祭2010教育賞、ニューヨ

ークフェスティバル 2011 テレビ番組・映画部門銀賞を受賞しています。

<語学分野>

小学生向け英語番組「ハピえいご」を夏期特集で制作。時代にあったNHK英語の再配置を目指し検討を続けてきた『英語グランドデザイン』の実質的なスタートの年となりました。また予定を1年繰り上げ「リトル・チャロ」の続編「リトル・チャロ2」を新作し、「ニュースで英会話」とともにクロスメディア展開を進めました。

また、新しい教養英語番組として世界の名言を英語で鑑賞する「ギフト～E名言の世界」を制作しました。英語以外の外国語番組は、TVでは伊独仏西の欧州4言語をまとめ、文法事項からキャスティングまで足並みをそろえて「ユーロ24」としてブランド化を図りました。さらに中国語・ハングルのアジア言語はそれぞれビジネス・エンタテインメントといったニーズに確実に応え、テキスト実売は6言語とも前年度を上回るなど好評を得ました。

また語学番組以外では2年目を迎えた「Jブンガク」(教育)が、J-WAVEとのコラボ企画・「NHK文化祭」ふれあいホールでの公開収録など多面的に展開したほか、日本社会に溶け込んで活躍する外国人を描く「Japanophiles」(国際放送)・新型仕事ドキュメント「人材ハッケン伝」(総合)・若い世代向けの哲学番組として「Q～わたしの思考探究」(教育)などを開発。語学をベースとした<コミュニケーション番組>の可能性を示しました。

<こども幼児分野>

こども幼児向け番組は、教育テレビで、「おかあさんといっしょ」、幼児がはじめて出会うテレビ「いないいないばあっ!」、4歳から5歳児を対象にした「みいつけた!」の3番組を核に、多様で良質な番組を制作しています。「みいつけた!」は幼稚園・保育所でも保育に活用できるように制作しています。こどもたちの関心の高いテーマを扱う番組として「にほんごであそぼ」「えいごであそぼ」「クインテット」「ピタゴラスイッチ」「てれび絵本」「ニャンちゅうワールド放送局」、衛星第2では「BSななみDEどーも!」などを制作しています。また、子育て中の若いお母さん・お父さんに向けて“役立つ子育て情報”を提供する「すくすく子育て」や「まいにちスクスク」の制作も行っています。

こども幼児向け番組の主たるターゲットは就学前の幼児ですが、平日朝7時から、小学校低学年向けにお目覚め番組「シャキーン！」も制作しています。ユニークな映像クイズや体と頭を動かすエクササイズなどが好評を得て、7時台の時間帯の幼児こどもゾーンを活性化し、視聴者から高い支持を得ています。また、こどもたちに「食」への関心を持ってもらう「食育」を意識した番組「クッキンアイドル アイ！マイ！まいん！」も夕方5時台に放送して、好評を得ています。

22年度の新番組では、新たな視聴者サービスに資するため、初めて「いないいないばあっ！」のイベント「あつまれ！ワンワンわんだーらんど」を開発しました。このイベントは「BSおかあさんといっしょファミリーコンサート」に代わるイベントです。年間10か所で実施し、「おかあさんといっしょファミリーコンサート」と同様に、チケットが手に入りづらい人気イベントになりました。

新番組開発として、こどもたちの感性や考える力、創造する力を高める番組「デザインあ」も制作し、23年度番組改定では定時化が決定しました。

<特集番組等>

当社初となる総合テレビ・プライムタイム（22時台）の定時番組「みんなでニホンGO！」を、前期（4月から9月）に全社体制で制作しました。そこで培ったノウハウは、23年度の番組改定において、総合テレビ・ゴールデンタイム（20時台）の新番組「仕事ハッケン伝」と「セカイでニホンGO！」の開発と受託につながりました。

特集番組では、番組提案時から定時番組で培ったその高い専門性と制作力を背景に、文化・歴史・教育などの様々なテーマに取り組み、「NHKスペシャル 私たちは核兵器を作った」「E TV特集」「BS世界のドキュメンタリー」「ハイビジョン特集」「プレミアム8」など、多くの良質な特集番組を制作、数々の賞を受賞するなど、高い評価を得ています。衛星第1では、「地球ドキュメント ミッション」を8本制作しました。

☆第47回ギャラクシー賞選奨・ATP賞優秀賞
「ハイビジョン特集 津軽」（21年度制作）

☆第47回ギャラクシー賞特別賞

「E T V特集 シリーズ・日本と朝鮮半島 2000 年」(21 年度制作)

☆科学放送高柳記念企画賞

「人類よ宇宙人になれ 立花隆 VS 小学生」(22 年度制作)

☆第 48 回ギャラクシー賞テレビ部門入賞

「E T V特集 枯葉剤の傷跡を見つめて～アメリカ・ベトナム次世代からの問いかけ」(22 年度制作)

〈ホームページ・データ放送制作等〉

個別の番組の内容を補完するホームページの他、語学番組、子ども番組、趣味番組などのポータルサイトも制作しています。Eテレポータルサイトでは、教育テレビ全体のPRを行っています。教育テレビの番組を題材にしたクイズを楽しむ携帯サイト「E T Vcafe」は若者に人気があり、アンケートによれば、このサイトをきっかけに教育テレビを見るようになった人が約3割もいます。

また、地上デジタル教育テレビに伴うデータ放送のコンテンツも制作しています。

以上、これらNHK関係業務の売上高は、過去最高の149億96百万円で、前期と比較しますと、9億80百万円(7.0%)の増収となりました。

【自主業務】

当社は、NHKから番組展開の窓口権を取得して多様な事業を実施するメディアミックス事業を展開の柱としています。さらにNHKや海外メディアとの国内・国際共同制作にも積極的に取り組み、「教育コンテンツ制作集団」としての専門性を生かした良質かつ多角的な事業展開を行いました。

こうした放送以外の諸メディアを活用した自主業務の展開によって、NHKコンテンツに対する視聴者からの多様なニーズにきめ細やかに応え、NHKへの親しみや信頼性の向上に大きな役割を果たし、あわせて副次収入による財政安定化に貢献しました。

①ソフト制作・販売事業

ア. 市販DVD等の制作・販売

当社の主力商品であるこども幼児関連のソフトは依然人気が高く、特に幼児向け映像ソフトでは、主要商品として「いないいないばあっ!」「おかあさんといっしょ」に「みいつけた!」が加わり、さらに強力な商品ラインナップとな

りました。この3番組のDVDは、22年度、あらたに18タイトルが発売され全42タイトルとなり、合計で年間約7億円の売上を計上しました。

こども幼児以外のジャンルでは、国内共同制作「リトル・チャロ」関連のDVDが、今年度スタートした新シリーズの好調に加え、旧シリーズ（全5巻）も放送終了後にもかかわらずさらに売上を伸ばしました。

DVD制作・販売では、商品構成の多様化などの工夫で、全体的な売上は堅調であるものの、パッケージ市場の縮小傾向の影響も確実に受けています。子ども・幼児向けソフト以外、特に生活系、教養系の分野では、新規発売タイトル数や初期ロット数、売上枚数の減少傾向は今年も止まりませんでした。今後は、DVDに代わる新たな映像ソフト流通の開拓が喫緊の課題となっています。

イ. その他のソフトの受注制作

市販以外のソフトにおいても、民間企業・各種団体から幅広く、様々な事業を受注しました。

美術関連では、展覧会と連動した展示ビデオ制作を多数受注し、高い評価を得ています。特に国内共同制作番組「巨匠たちの肖像」を展開した印象派関連の事業では、「マネ展」「ドガ展」の展示映像の制作に加え、DVDブックの制作・販売を行い、街中を印象派で彩ったBS広報キャンペーンなども絡めました。単に映像制作だけにとどまらず、美術番組制作のノウハウを最大限に活用した新しい展開の形を示すことができました。

また学校教育番組制作のノウハウを活用して開発した食育教育プログラム、経済教育プログラムやエネルギー環境教育プログラムは、企画・制作から実際の社会見学授業の実施まで一貫して行い、民間企業による社会貢献の新しいスキームとして高い評価を受けています。

これら映像ソフト制作・販売事業の売上高は、13億43百万円で、前期の売上高と比較しますと、44百万円（3.5%）の増収となりました。

② イベント企画・実施事業

番組制作で培ってきたノウハウと豊富な人脈を活用し、様々なイベントを実施しました。

「おかあさんといっしょスペシャルステージ」では、初めての大阪開催を実現（平成22年8月21日～22日・大阪城ホール）しました。埼玉での開催（平成

23年2月26日～27日・さいたまスーパーアリーナ)とあわせ、4日間で12万人を超えるお客さまに会場いただき、家族全員で楽しめる大型イベントとして、確実に定着しました。また2会場を合わせた売上は4億円を超え、イベント事業の中核となりました。

大型の継続イベントでは、「第12回国際バラとガーデニングショウ」(平成22年5月13日～18日・西武ドーム)「東京国際キルトフェスティバル」(平成23年1月21日～29日・東京ドーム)の2大ドームイベントの企画制作にもたずさわり、例年通り好評を博しました。特に10回目を迎えた「キルトフェスティバル」は、歴代のコンテスト大賞作品や100人を超える作家の展示を行い、記念の年にふさわしい内容となりました。

健康分野では、医学や健康の最新情報を伝える「健康応援フェスタ」を、「がん治療に漢方が果たす役割」、「睡眠の悩みと生活習慣病」のテーマで実施しました。会場に健康や運動の相談コーナーなども設け、いずれも来場者の高い関心を集めました。また、シンポジウムでは、「がん最新医療」や「ロコモティブシンドローム対策」などのテーマを取り上げたほか、医療関係の機関・団体との連携により、「認知症」や「在宅医療」など現代人が抱える深刻な問題を浮き彫りにしました。

このほか、盆栽や植木など和風の庭づくりをテーマにした「日本園芸フェスティバル」(4月29日～5月9日・さいたまスーパーアリーナ)や、「キルトフェスティバル」と連携して親子で手芸を楽しむ「夏休み親子手芸教室」を8月に計3回開催するなど、新規事業の開発にも積極的に取り組みました。なお、3月に開催予定だった「韓流“語楽”ナイト」や「綾戸智恵リハビリトーク&ライブ(第2回)」等、東日本大震災の影響で延期や中止をせざるを得ないイベントもありました。

これらイベント事業の売上高は、14億94百万円で、前期の売上高と比較しますと、1億60百万円(9.7%)の減収となりました。

③印税・権利等事業

印税・権利等事業の核である放送番組テキストは、「きょうの料理」「きょうの健康」「おしゃれ工房」「趣味の園芸」の家庭4誌のほか、「きょうの料理ビギナーズ」「趣味の園芸・やさいの時間」などの生活誌、「ラジオ英会話」「ハングル講座」「中国語講座」などの語学番組を中心に展開しました。

22年度の特徴は、語学テキストが全般的に好調だったことです。ハングルや中国語といったアジア言語、フランス語やイタリア語などのヨーロッパ言語のテキストが、イベントやトレインチャンネルなどを使った積極的な広報展開の成果もあり、大きく売上を伸ばしました。特に「ハングル講座」はテキストに加え、DVD - M o o k 「韓流スターと学ぶ！ハングル集中講座」も発売し大好評でした。

また国内共同制作の美術番組「巨匠たちの肖像」のDVD - B o o k（全5巻）は、書店の他、各地で開催される美術展会場でも販売されました。

これら印税・権利事業の売上高は、23億73百万円で、前期の売上高と比較しますと、2億40百万円（11.3%）の増収となりました。

④放送大学学園等受託事業

放送大学学園からの受託業務については、「授業番組」で37科目555本を制作しました。このほか、告知番組「大学の窓」の制作や「著作権処理業務」などを受託しました。

放送大学学園等受託事業の売上高は、9億21百万円で、前期の売上高と比較しますと、24百万円（2.7%）の増収となりました。

⑤デジタル関連事業

子育て支援サイト「すくすく・COM」、子どもたちのための「キッズワンダーランド」、外国語学習サポートサイト「ゴガクル」などのインターネット事業を、引き続き強化しました。料理レシピ検索サイト「みんなのきょうの料理」は、月間の利用者が100万人を超えました。

年々売上を伸ばしているモバイル関連「着うた」事業は、今年度もますます好調を維持し、特に「ドコノコノキノコ」（「おかあさんといっしょ」）は、8万6千ダウンロードの“大ヒット曲”となりました。

新たなデジタル事業として、大学生がインターネットを使って基礎教養を学び直すためのeラーニング事業に「NHK高校講座」（テレビ13番組・ラジオ11番組）を提供しました。

インターネット事業やモバイル事業にeラーニング事業が加わり、教育分野におけるデジタル関連事業の可能性はさらに広がりました。

デジタル関連事業の売上高は、3億56百万円で、前期の売上高と比較しますと、1億11百万円（45.3%）の増収となりました。

以上、各事業を総合した自主業務の売上高は、過去最高の64億89百万円となり、前期の売上高と比較しますと、2億59百万円（4.2%）の増収となりました。

2. 設備投資の状況

当期の設備投資総額は4億3百万円で、内容は以下のとおりです。

(単位：百万円)

資産の種類	取得価額	備考
有形固定資産・建物	30	レイアウト変更工事ほか
有形固定資産・工具器具備品	328 44	原盤制作 着ぐるみ制作、サーバーほか
有形固定資産計	403	

3. 資金調達の状況

前記の設備投資の資金は、自己資金で充当しています。

4. 対処すべき課題

当社は、平成元年の設立以来、親会社であるNHKの教育テレビを中心とした番組制作を行うとともに、この番組分野に関連したテキストの編集やDVD、イベントなどの企画・制作を行ってきました。来期は、『中期経営ビジョン（3か年）』の2年目となり、NHK関係業務と自主業務を事業の両輪としてより強固なものにしていきます。

「東日本大震災」からの復興支援にも力を入れます。当社ならではの専門分野を十分生かし、様々な番組やイベントなどを通じて、被災した方々の“心の支え”を提供します。

平成23年は「デジタル元年」となる節目です。NHK関係業務では、NHKの経営目標の柱である「接触率80%」の達成に寄与するため、クロスメディア、国内・国際共同制作をさらに推進し、新しい番組制作に挑戦します。自主業務では、「東日本大震災」による大きな影響を受けると予想しています。しかしその中でも、多様な端末に向けての新しいデジタルサービスの開発、“学び”をサポートするラインアップの充実、“出会いの場”を創造するイベント事業の提供などを進め、事業展開を強化します。さらに、学び直しなどのニーズに的確に応え、教育コンテンツの多様な展開を図っていきます。

今後も、NHKグループの一員として、企業経営の「原点」を常に見つめながら、社会の信頼に応えてまいります。

5. 財産及び損益の状況の推移

項 目	第19期 (平成19年度)	第20期 (平成20年度)	第21期 (平成21年度)	第22期 〔当期〕 (平成22年度)
売上高(千円)	18,204,432	19,957,546	20,245,204	21,485,193
経常利益(千円)	1,017,988	1,417,899	585,974	765,721
当期純利益(千円)	580,215	427,178	338,734	412,649
1株当たり当期純利益(円)	290,107	213,589	169,367	206,324
総資産(千円)	7,656,841	7,548,764	7,715,906	7,635,009
純資産(千円)	5,063,867	4,487,946	4,678,150	4,968,414
1株当たり純資産(円)	2,531,933	2,243,973	2,339,075	2,484,207

6. 重要な親会社の状況

親会社との関係

当社の親会社は、日本放送協会であり、当社の株式1,340株(出資比率67.0%)を保有しています。

当社は、同協会の委託による放送番組の制作、これらに関連する業務、同協会が制作した番組の利用権の購入などを行っています。

7. 主要な事業内容

- (1) 放送番組等の企画、制作、購入
- (2) ホームページ作成等デジタル関連業務
- (3) 幅広い世代を対象にした教育、教養ソフト制作・販売
- (4) イベント・シンポジウム等の企画・実施
- (5) 各種権利ビジネスや編集・出版関連業務
- (6) 放送大学関連番組の制作

なお、事業の主体をしめるNHK受託業務及び自主業務の主要なものは、次のとおりです。

受託番組	総合テレビ	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでニホンGO! ・NHKスペシャル 「私たちは核兵器を作った」「認知症を治せ！」
------	-------	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・夏期特集 「ホロコーストを生きのびて」「地球イチバン」 ・ワンダー×ワンダー 「天下無双の別荘群」「銀閣・幻の”月の御殿”」 ・未来をつくる君たちへ～司馬遼太郎からのメッセージ ・ヒューマンドキュメンタリー「太田光代・”爆笑”を売る法則」 「志村ふくみ・人生の色を染める」 ・年末特集「走る宮殿 ご料車・日本の歩み」 ・年始特集「甦る北斎・幻の海」 ・あさいち「あさいちごはん」「プレミアトーク」など ・「歌うコンシェルジュ」 ・開発番組「人材ハッケン伝」
	教育テレビ	<ul style="list-style-type: none"> ・E T V特集「中国残留孤児」「シンドラーのリスト」 「ベトナム戦争・枯葉剤」ほか ・日曜美術館 ・美の壺 ・ヒミツのちからんど ・ミューズの微笑み ・NHK短歌 ・NHK俳句 ・極める！ ・こだわり人物伝 ・仕事学のすすめ ・福祉ネットワーク ・ワンポイント介護 ・きょうの料理 ・きょうの料理ビギナーズ ・きょうの料理クッキングコンテスト 2010 ・きれいの魔法 ・グラン・ジュデ ・すてきにハンドメイド ・Eテレ 0655、2355 ・趣味の園芸 ・趣味の園芸ビギナーズ ・趣味の園芸やさいの時間 ・チャレンジ！ホビー ・直伝和の極意 ・中高年のためのらくらくパソコン塾 ・住まい自分流 ・まる得マガジン ・囲碁の時間 ・将棋の時間 ・NHK杯将棋 60 周年記念 夢の名局選 ・I T ホワイトボックス ・すイエんサー ・モリゾー・キッコロ 森へいこうよ！ ・きょうの健康 ・ここが聞きたい！名医にQ ・開発番組「名作ホスピタル」 ・テストの花道 ・テストの寄り道 ・となりの子育て ・おはなしのくに ・できた できた できた ・大科学実験 ・大科学実験スペシャル ・あしたをつかめ～平成若者仕事図鑑 ・10min. ボックス ・NHK高校講座 ・夏のテレビクラブ ・ニュースで英会話 ・リトルチャロ2～英語に恋する物語 ・3か月トピック英会話 ・ギフト～E名言の世界 ・Q～わたしの思考探究 ・テレビで中国語・ハンガール講座・フランス語・イタリア語・ スペイン語・ドイツ語・アラビア語、ロシア語会話 ・開発番組「ハピえいご」 ・おかあさんといっしょ ・いないいないばあっ！

		<ul style="list-style-type: none"> ・みいつけた！ ・シャキーン！ ・クインテット ・すくすく子育て ・クッキングアイドル アイ！マイ！まいん！ ・えいごであそぼ ・にほんごであそぼ ・つくってあそぼ ・しぜんとあそぼ ・ピラゴラスイッチ ・開発番組「デザイン あ！」
	衛星放送・ハイビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ・BS世界のドキュメンタリー <ul style="list-style-type: none"> 「核戦争はこう想定された」「青海大地震」 「囚われた子ども」「タイ・少年ボクサー」 ・地球ドキュメント・ミッション（4本） ・プレミアム8 「巨匠たちの肖像」（4本） <ul style="list-style-type: none"> 「夢の聖地」「世界一番紀行」 「大胆不敵な水墨画」「スペシャルインタビュー」 「読まれなかったフレデリックへの手紙」 ・ハイビジョン特集 「伯林100年の物語」 <ul style="list-style-type: none"> 「ジュナとムンジャ」「動け！巨大マシーン」 「女優の肖像・浅丘ルリ子」「国東半島・峯入」 「京都南禅寺界限」「銀閣寺」「アイランド競馬」 ・辻井伸之 ショパンの心を弾きたい ・イタリア特集 「額縁をくぐって物語の中へ」 <ul style="list-style-type: none"> 「夢の聖地へ 世界最高の郷土料理」 ・南アフリカ絶景を弾く ・男前列伝 ・印象派スペシャル ・夢の美術館 圧巻！黄金のイタリア美術 ・シリーズ正倉院 宝物が語る平城京（3本） ・証言記録 兵士たちの戦争 ・「カシャッと一句！ フォト575」 ・囲碁将棋タイトル戦「名人戦」ほか ・徹底分析 将棋竜王戦2010 ・BSななみDEども
	ラジオ第2	<ul style="list-style-type: none"> ・カルチャーラジオ「歴史再発見」「芸術その魅力」 「文学の世界」「俳句・短歌をよむ」「漢詩をよむ」 ・文化講演会 ・古典講読 ・こころをよむ ・私の日本語辞典 ・朗読 ・社会福祉セミナー ・NHK高校講座 ・ラジオ英会話 ・基礎英語1・2・3 ・英語5分間トレーニング ・入門ビジネス英語 ・実践ビジネス英語 ・英語ものしり倶楽部 ・リトルチャロ2 ～心にしみる英語ドラマ ・まいにち中国語 ・ハングル講座 ・フランス語 ・イタリア語 ・スペイン語 ・ドイツ語 ・ロシア語
	テレビ国際放送	<ul style="list-style-type: none"> ・Your Japanese Kitchen ・BEGIN JAPANOLOGY

自主業務	各種ソフト制作	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味・美術関係ソフト ・健康・医療関係ソフト ・料理・食品関係ソフト ・こども幼児向け関係ソフト ・教育・語学教材ソフト
	イベント企画実施	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回 国際バラとガーデニングショウ ・東京国際キルトフェスティバル-布と針と糸の祭典 2011- ・日本園芸フェスティバル~ジャパニーズモダン 江戸の粋~ ・おかあさんといっしょスペシャルステージ (さいたまスーパーアリーナ・大阪城ホール)
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・リトル・チャロ2 ・Jブンガク ・プレミアム8 巨匠たちの肖像 ・放送大学学園番組制作 ・'10 ミルクカレンダー ・みんなのきょうの料理 ・ゴガクル ・すくすく.COM ・キッズワンダーランド

8. 主要な事業所

本社 生活部, こども幼児部, 事業推進室	東京都渋谷区神山町9番2号 第六共同ビル
特集文化部 (美術・教養)	東京都渋谷区神山町6番3号 第五共同ビル
特集文化部 (特集事務局), 科学健康部, 教育部, 語学部	東京都渋谷区宇田川町7番13号 第二共同ビル
事業推進室 [デジタルコンテンツ]	東京都渋谷区宇田川町7番7号 ジュネスビル

9. 従業員の状況

従業員数	前期末比増減数
231名	21名増

<内訳>

区分	転籍者	出向者	社員	契約社員	計
男	25人	85人	27人	8人	145人
女	1	42	39	4	86
計	26	127	66	12	231

(注) 常勤役員6名は含めていません。

10. 主要な借入先

該当事項はありません。

II 会社の株式に関する事項

- | | |
|-------------|--------|
| 1. 発行可能株式総数 | 8,000株 |
| 2. 発行済株式の総数 | 2,000株 |
| 3. 株主数 | 7名 |
| 4. 株主の状況 | |

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
日本放送協会	1,340株	67.0%
(株)NHKエンタープライズ	210株	10.5%
(株)NHKグローバルメディアサービス	90株	4.5%
(株)NHKプロモーション	90株	4.5%
(株)NHKアート	90株	4.5%
(株)NHKメディアテクノロジー	90株	4.5%
(株)NHK出版	90株	4.5%

III 会社の役員に関する事項

1. 取締役及び監査役の氏名等

地位	担当	氏名	重要な兼職の状況
代表取締役社長		村上憲一	(株)NHKエンタープライズ 取締役 (株)NHK出版取締役 (株)NHKプロモーション 取締役
常務取締役	営業担当	瀧澤孝司	
常務取締役	経営総務担当	木内美明	
取締役	制作担当	中村哲志	
取締役	制作担当	光野純子	
取締役	制作担当	関根均	
取締役(非常勤)		新山賢治	日本放送協会 制作局長
取締役(非常勤)		遠藤けん一	(株)NHK出版 代表取締役社長
監査役(非常勤)		田島潔	日本放送協会関連事業局 専任部長

(注) 当期中の取締役の異動は、次のとおりです。

1. 就任

平成22年6月23日付で、瀧澤孝司氏、木内美明氏が常務取締役に、関根均氏が取締役に就任しました。

2. 退任

平成22年6月23日付で、江頭賢治氏が専務取締役を退任しました。

2. 取締役及び監査役に支払った報酬等の総額

区 分	支給人員	支給総額
取締役	7名	93百万円

(注) 上記のほか、当事業年度に退任した取締役（1名）に対して、退任慰労金2百万円を支払っています。

IV 会社の体制および方針

1. 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- (1) 当社は取締役、社員を含めた行動規範として、「NED倫理・行動憲章」と「行動指針」を定め、これらの遵守を図る。
- (2) リスクマネジメントおよびコンプライアンスを維持運営および推進するため、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、その下に事務局（業務相談窓口）を設置する。また、各部にリスクマネジメント担当者、コンプライアンス推進担当者を置き、全社的に法令遵守が確保される体制をとる。
- (3) 取締役および使用人のコンプライアンスの徹底を図るため、「コンプライアンス通報窓口（内部窓口、外部窓口）」、「セクシャルハラスメント苦情・相談窓口」を設置し、社内に効果的に周知し、適宜、法令等の遵守状況をモニタリングする。また、「インサイダー取引防止規程」を定め、取締役および使用人によるインサイダー取引を禁止している。
- (4) 取締役会については、「株式会社NHKエデュケーショナル取締役会規則」を定め、その適切な運営を確保し、定例で開催するほか必要に応じて随時開催し、取締役間の意思疎通を図るとともに相互に業務執行を監督し、法令・定款違反行為を未然に防止する。万一、取締役が他の取締役の法令・定款違反行為を発見した場合は直ちに監査役および取締役会に報告するなどして、その徹底を図る。
- (5) 執行役員については「執行役員制度規程」を遵守し、職務執行の法令・定款への適合を確保する。
- (6) 監査役は、取締役の職務執行、経営機能に対する監督強化を図る。

- (7) コンプライアンス関連の研修、社内通達等による啓発、社員総会などによる意識づけに努め、全社的な法令遵守の一層の推進を図るとともに、「稟議規程」の適正な運用により、取締役の職務執行の透明性を確保する。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- (1) 「文書管理規程」により、資料等の扱いを明文化し、取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に適正を期す。
- (2) 「株主総会議事録」「取締役会議事録」「役員会議事録」については、「文書管理規程」に基づいて適切かつ確実に保存・保管し、「役員会議事録」については、取締役及び監査役が常に閲覧可能な状態に置く。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (1) 当社は、当社の業務に係るリスクとして、投資的リスク、下請法等法令違反につながるリスク、企業機密への不正アクセス・漏洩等情報セキュリティ的リスクなどを認識し、信用調査、対応マニュアル等を整備する。また、公共放送NHKの関連団体グループの一員として、公金の扱いについては特に厳正を期し、万が一にも社会的な指弾を受けることのないよう注意を払う。
- (2) リスクマネジメント責任者を代表取締役社長とし、リスク管理体制の整備・運用にあたる。
- (3) 危機管理と予防的管理についての体制を充実し、研修等を含め、損失の危険の管理について全社的な認識向上を図る。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (1) 職掌分掌に関する諸規程を定め、取締役および各部門の所管と権限を明確にし、経営に関する意思決定および職務遂行を効率的かつ適正に行う。
- (2) 重要な意思決定については、常勤取締役等による役員会などにより多面的に検討し、慎重に決定する仕組みを設ける。
- (3) 中期経営計画およびそれを受けた年度事業計画を策定し、事業ごとの目標値を設定し、業績を把握し、適宜見直しを行う。
- (4) さらに効率的に職務を執行するために、内部統制との関係を考慮しつつ、案件に応じた職務権限の委譲を検討する。

5. 会社並びにその親会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- (1) 当社の親会社にあたるNHKの子会社等の事業が適切に行われることを目的として、「関連団体運営基準」により、事業運営およびこれに対するNHKの指導・監督等に関する基本的事項が定められており、当社も該当している。
- (2) NHKは、「関連団体運営基準」に関する事項およびNHKが指定する事項について、監査法人等に委嘱して関連団体の業務監査を実施し、監査法人等の報告に基づき、関連団体に対し必要な指導・監督を行っており、当社も該当している。
- (3) NHKの監事が当社に対し営業の報告を求め、または業務および財産の状況を調査する場合には、当社は、適切な対応を行う。
- (4) NHKは、全国民の基盤に立つ公共放送の機関として、不偏不党の立場を守って、放送による言論と表現の自由を確保し、豊かで、良い放送を行うことを目的とした法人である。

また、放送法により、NHKに対する公共的規制は、国民の代表である国会を中心として行われ、毎年度の予算・事業計画は国会での承認を要している。NHKには、経営方針その他その業務の運営に関する重要事項を決定する権限と責任を有する経営委員会が設置され、会長等による業務の執行と監督の機能とが明確に分離され、適正なガバナンスが確保されており、業務の実施にあたっては、「NHK倫理・行動憲章」の策定、「視聴者視点によるNHK評価委員会」の設置、「通報・相談窓口」の整備などにより、適正が確保されていると理解している。

6. 監査役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

- (1) 監査役の職務を補助する部を経営総務室とする。
- (2) 監査役より監査業務に必要な命令を受けた経営総務室社員は、その命令に関して、取締役、経営総務室統括部長等の指揮命令をうけない。

7. 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制および監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- (1) 取締役または使用人は、法定の事項に加え、当社に重大な影響を及ぼす事項の内容を、監査役にそのつど報告するものとする。
- (2) 監査役は、いつでも必要に応じて、取締役および使用人に対して報告を求めることができる。